

雑 報

●ヘリウムが固体にされた 1868年にノーマン・ロキアが太陽紅焔中に発見したヘリウム瓦斯は、1896年ラムゼイによつて吾が地球上の或る礫石中にも認められ、最近には天然ガス中にも之れが含まれることが知れて來る。しかし、ヘリウムは化學的に非常に不活潑なガフで、又、非常に變形しにくく、1908年に至つて始めて低温物理學の大家Kオンネス(オランダ國ライデン大學教授で、今年初逝去)がヘリウムを液體にすることが出來た。尙一步進んで之れを固体にすることをオンネス教授は研究したが、死に至るまで其れは不成功であつた。此の研究は同大學のケーソム(Keesom)教授が續いてやつたが、絶對溫度一度以下の極低温に於いてもヘリウムは依然として液體であつた。しかるに去る六月二十五日、ケーソム氏は液體ヘリウムを鋼鐵の管の中で百五十氣壓の壓力と絶對溫度四度の低温に冷却したとき、こゝに始めてヘリウムは固体となつたといふ。其のうち、同氏は又、ガラス管の中で、壓力二十八氣壓、氣温一度半(絶對溫度)の下にヘリウムを固体化することにも成功した。

●愈々わが國産の反射望遠鏡!!

京都大學の中村要氏が今春以來着手せられた反射鏡面の製作は其の後急速に進み、目下氏は第十番目の15センチ鏡を磨いておられる。又、氏の監督の下に京都の西村製作所は適當な鏡筒及び三脚臺を製造することとなり勿論中村鏡を附して、既に二臺の完全な望遠鏡が、一は横濱へ、又一つは大阪へ賣却せられた。第三臺のものは八月末に山口縣徳山で十月中頃には京都で展覽せられる筈(廣告欄を見よ)

●ナルファ教授の定年解職 1893年以來、スウェーデン國チウリヒ大學天文臺長として先代のナルファ教授のあとを繼ぎ、太陽黒點の連續觀測をやつてゐたAナルファ教授は、去る三月三十一日を以つて、定年により、辭職し、其のあとをアルンナー(W. Brunner)氏が繼ぐこととなつた。故に今後は、例の太陽黒點の相對數も此のアルンナー氏の名で發表せられる筈である。(天界第62號第114頁參照)

●スコフィールド氏の太陽紅焔觀測

神戸の本會々員Rスコフィールド氏が1920年以來其の自宅に天文臺を作つて21センチ級の反射鏡により火星などの觀測をやつておられることは既に外國にまでも知れわたつてゐることであるが、氏は近頃又、太陽の紅焔の連續觀測を始められた。尤も、氏が太陽紅焔を見たいとの希望を持たれたのは1922年頃からであつて、種々苦心の末、遂に英國のアダムヒルガー(Adam Hilger)會社から紅焔觀測用の分光器を購入され、1924年頃から始めて、いろいろの經驗をつまえた。そして愈々本年四月からは其の毎日の觀測結果を本會觀測部に報告せられ、毎月一回づつブレンテ誌上に之れが發表されることとなつた。即ち

1926年四月分は	ブレンテ 第76號に
同 五月分は	同 第80號に
同 六月分は	同 第82號に
同 七月分は	同 第83號に
同 八月分は	同 第86號に

にある。こうして將來永く繼續されるさ、三澤氏の觀測の如く、太陽活動のために貴重な結果が學界に與へられることになるであらう。(氏の觀測の精しい事情は追つて稿を改めて記すこととする。)

スコフィールド氏の觀測に促がされ、又、最近ヒルガー會社の特價品賣却の廣告の機を見て、京都大學の山本博士は同會社製の紅焔分光器を二つ注文せられた。之れは七月にロンドンから荷が積み出された筈であるから、九月中には着くだらう。そうすると、此の二つの分光器は、一つは九州あたりに、他の一つは北海道あたりに送られて、多分本會員の中の熱心家によつて使用せられるであらう。そして、京都大學の大型分光寫眞儀と、前記スコフィールド氏の器械と、四つが相互に協力して、太陽紅焔の觀測が盛んに行はれるであらう。因みに、太陽紅焔は黒點よりも一層急激に變動するものであつて、此の觀測は非常に大切なものであるが、現今は此の方面の眼視觀測の中央局がイタリア國のフイレンツエ天文臺にあり、又、寫眞的にはヘルソン山、ヤトキース、トートサ、コイカナル等の諸天文臺で觀測されてゐる。